

身延山

日蓮宗の総本山にして、七百年以上にわたり人々の信仰を集めてきた祈りの聖地。



七面山敬慎院 ☎ 0556-45-2551
〒 身延町身延 4217-1
✉ https://www.kuonji.jp/shichimenzan

みのぶトリビア 身延山も守る山岳信仰の山『七面山』 MAP A-5

「七面山は南アルプス連邦に属する標高1982mの豊かな自然が残る美しい山であり、古来は山岳信仰の対象として、日蓮聖人が身延山にご入山されて以降は法華經信仰の聖地としてお参りされてきた靈山です。現在、山頂近くにある敬慎院には、身延山を守護する鎮守神として七面大明神がまつられており、秋の例大祭をはじめ多くの方が参拝に訪れられます。また、春と秋のお彼岸には、富士山頂からの美しいご来光を拝することができます。登詣には、山坂が続く参道を4~5時間お登りいただくことがありますので、お気をつけてお越しください。」



七面山は
雷駆あらいたかな
お山だワン

しだれ桜が咲き誇る春、
濃い緑に覆われる夏、
色あざやかに染まる秋、
澄んだ空気に包まれる冬。
歴史あるパワースポットで、
自分と向き合う時間は、
あなたの心を癒してくれるはず。
さあ、
日常を忘れ、
心洗われる靈山を旅しよう。



身延山久遠寺
☎ 0556-62-1011
〒 身延町身延 3567
⌚ 窓口受付 5:00~16:20

MAP B-5



MAP B-4 身延山山頂に位置する奥之院思親閣

身延山山頂にある日蓮聖人が故郷房州の両親に思いを馳せた靈場。現在はロープウェイで約7分で登詣することができる。“親を思うお堂”という意味で名付けられた「思親閣祖師堂」、仁王尊像を祀る「仁王門」のほか、参道には、日蓮聖人が両親の追善のため手植えしたと伝えられる杉の巨木がある。



MAP B-5

日蓮聖人が住まわれた跡地御草庵跡

日蓮聖人が約9年間過ごした御草庵の跡地。奥にある聖人の遺骨を納めた御廟所とあわせ、秋には、見事な紅葉を楽しめる。



2009年5月に落慶された五重塔

明治の大火による焼失より134年ぶりにみがえった宝塔。木材は全て国産を使用し、設計から工法にいたるまで400年前に建てられた元和の塔を復元・再建した。高さ38.2m、第1層の総間は5.6mという壮大な塔の心柱には、身延山の峰より切り出した巨木がつかわれている。



三門から本堂へと続く287段の石段菩提梯

三門と本堂を一文字に結ぶ、高さ104mの石段。「南無妙法蓮華経」の7字になぞらえ、7区画に分かれている。菩提梯とは、悟りに至る階段のことと、これを登りければ本堂(悟り)に至ることを意味する。

MAP B-4-5

身延山ロープウェイ

山麓・久遠寺駅と山頂の奥之院駅とを片道約7分で結ぶロープウェイ。山頂からは富士山を望むことができる。また、山頂駅直結の展望レストランでは、地元特産のゆばを使ったメニューなどを楽しめるほか、売店では土産物の購入ができる。

☎ 0556-62-1081
〒 身延町身延宇上の山 4226-2



MAP B-5

身延山観光協会

三門の前にある観光案内所。身延山周辺の詳しい観光情報を探しているので、気軽に立ち寄って。

☎ 0556-62-0502
〒 身延町身延 3567

身延山周辺マップ

みのぶトリビア



MAP B-5

日本三大三門のひとつ三門

「空」「無相」「無願」の三解脱をあらわすことから三門と呼ばれる。間口23m、奥行9m、高さ21mの総けやき造りで、楼上には、釈尊像と16体の羅漢像が奉安されている。「身延山」の扁額は、79世日蓮上人の筆による。

蓮と南天でおもてなし『門内商店街』

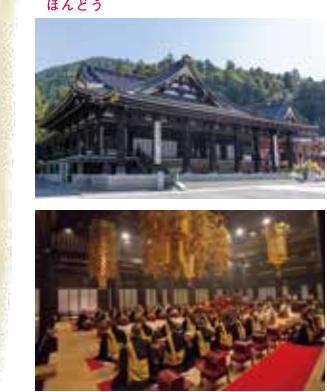
「数珠や仏具などを取り揃える店から、飲食店、土産物店、日用品を扱う店まで多岐にわたる約40店が軒を連ねる門内商店街。身延山を訪れる皆様に楽しんでいたところ、夏は蓮、冬は南天を飾りお客様をお迎えしています。蓮は6月下旬~8月中旬、南天は年末年始を中心に商店街を彩ります。美しい蓮の花と南天と共にお客様をおもてなしいたしますので、是非お立ち寄りください。」



MAP B-5

1985年に再建された本堂

ほんどう



総坪数970坪、間口32m、奥行51mあり、一度に1500人の法要を奉行できる本堂。日本画壇の重鎮、加山又造画伯による天井画『墨龍』は、見るものを圧倒する迫力がある。毎朝行われるお勤めに参加することもできる。また、地階の宝物館には、指定文化財など久遠寺の宝物の数々が展示されている。



日蓮聖人の神靈を祀る堂閣祖師堂

そしどう

明治14年に江戸にあった寺院のお堂を移築、再建したもので、春には樹齢400年を超えるしだれ桜との共演を楽しめる。内陣虹梁の中央に掲げられている『立正』の扁額は、昭和6年に昭和天皇より賜った勅額。